

ひょうご

410

MIN-IREN

2023.3・4

合併号



2011年宮城県塩竈市



2011年東日本大震災 県連支援



1995年阪神・淡路大震災 安否確認

あの日から28年
世界中で続く地震
今、改めて防災について考えよう

4・5面に続く



事業所・職場紹介

輝 いて います！

診療所開設から70年 ～これからも100年続く事業所として～

宝塚医療生活協同組合 良元診療所 事務長 中田 幹二

良元診療所は戦後、旧川西航空機工場跡地(現在の阪神競馬場)を農地として開放する運動から生まれ、1953年(昭和28年)8月9日に設立されました。今でも阪神競馬場の北西角に取り壊されていない建物が残っていますが、それが設立当初の良元診療所です。そして現在の地には1976年(昭和51年)1月に移転しました。

今年で良元診療所は70周年を迎えます。この間、聴診器1本で診療をスタートさせてから医師体制や赤字対策の苦難を克服、宝塚医療生活協同組合設立を経て、1984年(昭和59年)7月に第10代所長として脇野耕一医師が就任し、診療所としての年輪を積み重ねてきました。それから長きにわたり脇野医師が所



長として良元診療所を支えてきましたが、2020年(令和2年)12月三宅岳所長、2022年(令和4年)12月に安部義美所長を迎えてきました。

そして現在は、医師2名・看護師9名・技師3名・事務5名・運転手3名で事業を運営しています。午前診療は2診体制で、火・水の午後に訪問診療、月・水・木に夜間診療を行っており、地域医療の一端を担っています。診療科は内科・糖尿病内科・循環器内科・皮膚科・小児科を標榜しています。また健診活動では、全国健康保険協会の「生活習慣病予防健診」の委託を早くから受け、1,000件以上の方から受診していただいています。

新型コロナウイルス感染症が

日本で初めて確認された当初は、受診控えが相次ぎ大幅な赤字を計上しましたが、職員全員の英知を結集して困難を切り抜けました。2020年(令和2年)12月には「兵庫県発熱外来診療・検査医療機関」の指定を受け発熱外来を開始。近隣の新型コロナウイルス感染症疑いの患者様の対応を行っています。診療所内に隔離スペースを設けたり、場合によってはかかりつけの高齢患者様が発熱した際には、送迎をしたり臨機応変な対応に取り組んでいます。

今後も地域医療の一端を担い、80年100年と続く事業所として職員一同力を合わせて頑張っていきます。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



▲訪問診療へ出発！

事業所の窓から～歴史と地域紹介～

宝塚医療生活協同組合

宝塚市のリトル沖縄

07

『シーサーや石敢當』 ～身近に沖縄を感じられる景色～



高松診療所のある高松町を歩いていると、「比嘉」「大城」「玉那覇」など沖縄の方の表札をよく見かけます。なぜ、沖縄から遠く離れた宝塚市高松町にこういった方がたくさん住んでおられるのか？そのはじまりは今から約100年前まで遡ります。

＜武庫川堤防建設をきっかけに＞

1920年（大正9年）武庫川中流における川の氾濫を防ぐため、大規模な堤防建設工事が行われました。その時に沖縄から来た大勢の建設スタッフがあちこちに移り住み、1930年以降「高松」という集住地区ができました。当時、あばれ川といわれていた武庫川も今はその姿を変え、川幅も狭くなっていますが高松町には実際に造られた堤防の跡が残っています。

高松集住地区は、現在の「高松町」「御所の前町」「美幸町」を指しますが、大通りを挟んで東西に分かれています。当時、西側の高松町は武庫川の後背湿地に当たる場所で、宅地の規模も大小さまざま。養豚や養鶏業などの産業が盛んでした。一方、東側の御所の前町と美幸町は武庫川の大規模堤防上に位置し、人工的に形成された地区であるため土地区画は整然としており、管理職向けの家屋があったりと高松集住地区の中でも沖縄の方の生活はエリアによって大きな違いがあったことが分かります。

＜沖縄を感じるものがあちこちに＞

そんな歴史をもつ高松町は、「シーサー」や「石敢當」という魔よけの石碑や、島瓦の家なども多く見られます。中でも豚肉や沖縄の食材を扱っている「トシヤ精肉店」さんは地元以外でも美味しいと有名で、沖縄料理店を営まれている方が遠方から買い付けに来るほど。また、町内にある高松会館ではエイサーや沖縄舞踊や三線（さんしん）の音色が時々聞こえてきます。



▲石敢當

ここ数年で新しい家が建ったり、道幅も広く整備されたりと街並みも少しずつ変わってきていますが、高松町には今でも沖縄を感じるものがたくさんあります。



▲堤防の跡



▲トシヤ精肉店



▲高松会館

あの日から28年 世界中で続く地震 今、改めて防災について考えよう

2月6日未明、トルコ南部とシリア北部でマグニチュード7.8の地震が発生しました。

被災者のみなさんの思いに心を寄せつつ、今一度災害に対する心構えを一段階上げる必要性を感じる機会になったのではないのでしょうか。今回の記事がさらなる行動につながることを期待しています。

Q.1 過去の巨大地震でマグニチュード8以上の地震でないものはどれ？

- ①1995年 兵庫県南部地震 ②2011年 東北地方太平洋沖地震
③1946年 南海地震 ④1933年 昭和三陸地震

Q.2 東日本大震災で釜石の奇跡といわれる「津波てんでんこ」の教えを述べたもので、間違いは？

- ①近隣相互の助け合い ②想定にとらわれない
③与えられた状況で最善を尽くせ ④率先避難者たれ

Q.3 マグニチュードが世界最大だった地震は？

- ①1952年 カムチャッカ地震(旧ソ連) ②1960年 チリ地震(チリ)
③2004年 スマトラ島沖地震(インドネシア) ④2011年 東北地方太平洋沖地震(日本)

Q.4 マグニチュード5.5以上の地震発生数が一番多い国は？

- ①中国 ②インドネシア ③トルコ ④日本

Q.5 死者・行方不明者が最も多かった地震は？

- ①1923年 関東大地震(日本) ②1976年 唐山地震(中国)
③2004年 スマトラ島沖地震(インドネシア) ④2010年 ハイチ地震(ハイチ)



A1 ①兵庫県南部地震 マグニチュード7.3 A2 ①近隣相互の助け合いは各自が生き延びた後に必要となるが、まずは1人で逃げること。
A3 ②チリ地震 マグニチュード9.5 A4 ①中国 年間平均数2.1回(1980～2004)※現在はもっと増えている A5 ②唐山地震 242,000人

写真「人と防災未来センター」より ①BOSAIサイエンスフィールド ②～⑤震災の記憶フロア

アクション・カードで『減災対策』

～日々の訓練の中で繰り返し改善することで、安全で効果的な防災対策を行う～

具体的に減災対策に取り組んでいる神戸協同病院・手術室の「アクション・カードで減災対策」についてご紹介します。この取り組みは第47回兵庫民医連学術運動交流集会にも発表されました。

30年以内にマグニチュード8～9クラスの南海トラフ地震が発生する確率は70～80%ともいわれており、日頃から備えに努め「減災」につなげることが急務になっています。手術室では数年前より看護研究を通し、患者移送など防災対策を行ってきました。

目的は、訓練を繰り返し行うことでアクション・カード(以下AC)を有

効的なものに作り上げることです。実際にACを使用し訓練すると、行動することが難しく改善点が多かったです。何度か修正を行い訓練を重ねることで、各々の役割や責任が明確になり災害時の不安が軽減できました。また、日常から災害時に対しての話しをすることが増えました。問題点が明確になったことで、それに対する対策も考えることができました。

今回ACを作成することを目指に取り組みましたが、ACは訓練の一つのツールであり、訓練を繰り返す行うことが大切であることを学びました。またACに完成版はなく、訓練の中で繰り返し改善することでより実際に即したものが作られることを学びました。

【引用文献】アクション・カードで減災対策 救命救急センター 医師 中島 康

アクション・カードの定義

「行動を促し、判断を導く、活動の事前指示書」である。つまり、マニュアルの抜粋やチェックリストなどの目次のようなものではなく、具体的な行動を列挙してあるものである。

アクション・カードの原則

- ①役割、目的を決めておく
②行動を順番に並べていく
③一つ一つ処理していく
ACは円滑に出来るよう、**シンプル**に！

アクション・カードの作成方法

- ①すぐにする行動を**赤枠**で囲む。字は大きく命令口調
②揺れが落ち着いて次にすることを**橙色**の枠で囲む。最小限必要な事だけ、命令口調
③一息ついて行動する事を**青枠**で具体的に(物品・行動・注意点)

～せよ！！
～せよ！
～する。

訓練の方法

作戦2分+訓練5分 = 計7分×3回実施
その後、反省会9分。計30分

パニックからの回復を促進する

短い訓練を何度も行う
↓
動きが定着
↓

パニックにならず、落ち着いて行動ができる

初動が大事

実際の訓練風景



无影灯を遠ざけよ！

器材の落下に注意せよ！

アクション・カード

地震をはじめ自然災害を完全に防ぐ方法はありません。しかし、工夫次第で減災はできるということがわかる発表でした。

この発表動画は右記のQRコードよりご覧いただけます。

第13分科会 第6演題



生存権 No.170



コロナ禍での小規模事業所が 対応してきたことを振り返る ～発熱受診困難者を受け入れて、見えてきた事～

兵庫民医連 看護委員会

はじめに

コロナ禍から3年が過ぎました。当事業所は常勤看護師2名、非常勤看護師5名で1日平均患者数は40名弱の小規模事業所です。2020年10月に発熱外来を開設し、保健所へ公開し対応してきました。発熱外来の受診者数は、2022年12月で1,322人になり陽性率は39.0%（陽性者516名）です。

近くに法人内の薬局がないため法人外の薬局と連携しています。さらに隣接する特養の嘱託医でもあるため、クラスター時には開業医と連携を取りながら治療にあたりました。また、感染管理認定看護師にPPE（個人防護具）の正しい着脱やゾーニング等の指導を受けました。指導を受けた当初は管理者・職責者のみでの発熱患者さんへの対応でしたが、第7～8波の頃には非常勤スタッフもPPEの正しい着脱ができるようになり、スムーズな流れになりました。コロナ禍の中で関わってきた2つの事例を紹介します。

事例1 A氏 30代男性（伊丹市在住）

学校のクラブ活動の付き添いで長野県から帰阪、伊丹空港での抗原検査でコロナ陽性となる。妻が臨月のためそのまま帰宅することができず、伊丹市内の病院やクリニック等に受診の問い合わせをしたが受け入れ先はなかった。インターネットで当事業所を検索し「実家も遠方で近くに親戚もいない。上記の理由でホテル療養をさせてほしいので何とか助けてください」と時間外に連絡が入る。

時間外ではあったがなんとか受診につなげ、陽性証明はあるとのことだったので尼崎市保健所へ連絡し、急ぎ発生届を提出して伊丹市保健所からの連絡

待ちとなる。後日、本人より「おかげでホテル療養ができました」と感謝の連絡があった。

事例2

B氏 70代男性
（大動脈瘤手術後、C病院とDクリニックを併診）

孫からコロナに感染する。かかりつけ医が発熱外来を行っていないため、当事業所へ受診される。基礎疾患があったのでラゲブリオの服用を勧め、本人も了承したのでかかりつけ医に連絡、確認後ラゲブリオを処方する。その後、妻（乳がんの手術予定）も感染、結果家族全員が当院のかかりつけとなった。

考察

当初、「発熱外来」を行うことにスタッフから不安な声があり悩みながらの対応でした。しかし、所長から「コロナは災害やと思って対応していこう、それが民医連」と後押しされ、スタッフにも所長や自分の思いを伝えていきました。保健所から「お宅なら何とかしてくれる」「10件以上電話しても診てもらえなかったのに、対応していただいて助かりました」という声に励まされました。また、地域での連携の大切さや法人外でも顔の見える関係ができ、薬局からも発熱での紹介をいただけるようになりました。

これまでスタッフの家族も含め陽性者がでなかったのは、初期段階での学習会や感染管理認定看護師による継続した指導が全体の感染予防につながったことで、スタッフの確信となり強みとなりました。これからも困ったときにしっかり診ることが安心につながることを確信し、『まず診る・援助する・何とかする』を実践しながら地域や法人内外との連携を深め、コロナ禍を乗り切って行こうと思います。

兵庫医療事業協同組合 事務局着任のお知らせ



こうこ
廣瀬 香子さん

この度1月より、神戸健康共和会から兵医協に出向となりました、廣瀬香子と申します。共和会では中途入職で7年強、社労士の資格を生かし総務業務を担当しておりました。この度、全くの経験のない医薬品・医材の業務を担当させて頂く事となり、期待と不安でいっぱいですが、1日でも早く戦力になれるように頑張りたいと思います。

業務以外でも兵医協・県連の成り立ちや仕組みをしっかり学びながら、いくつになっても新たな挑戦で、様々なバージョンアップができるよう励んでいきたいです。

読者の声

●先日、初めてコロナに罹患しました。普段から免疫力をつけるよう気をつけていましたが、少し体調を崩した時に罹患してしまいました。改めて免疫力の大切さを痛感しています。症状は正直とてもしんどかったのですが、療養中も復帰後も、職場の方々の優しさに助けられました！

ペンネーム ときわ

●読者の声を読んで、岡野さんの文鳥が見つかってよかったな一っと思いました。諦めずに探した飼い主さんのペットに対する愛情、優しさが奇跡と呼んだんですね。ほっとしました。

ペンネーム かゆり

●お正月休みに間違い探しをしています。今年もよろしくお願いします。

ペンネーム ちこ

●6ページの生存権記事が興味深かったです。実際に病棟でも似たようなケースが多く、点だけでみてしまうことがあるのですが、多職種と連携して色んな側面から考えていくことが大事と日々学びます。いつも勉強になったり元気がもらえる記事をありがとうございます。2023年もよろしくお願いします。コロナ感染後も元気に退院していく高齢者さんにこっちが元気をもらおう毎日です。

ペンネーム りんご

●事業所の窓からの記事で御着城が紹介されていました。看板には官兵衛ゆかりとあり、いつも車で通っていましたが詳しく知らなかったのが知れて良かったです。事業所では面会時間を10分から5分にして、ギリギリのなかで感染対策をとりながらもニーズに寄り添っています。少しづつコロナが増えてきましたが、お互い様の精神でスタッフ同士支え合って奮闘しています。

ペンネーム あゆみん

●コロナ禍を乗り越えて希望の一言。私も長期休暇が欲しい！遠くに旅に行きたい！コロナ前のマスクをしなくてもいい生活が恋しいです（笑）

ペンネーム ベル

●大澤先生の「癸卯」であり努力が報われ発展するというメッセージに励まされました。年明け早々我が家はコロナに感染してしまい全員ダウン。私は咳と嗅覚の低下が残っています。でもうさがジャンプをするように、これから大きくステップ・ジャンプアップしたいです。

ペンネーム たぬきまる

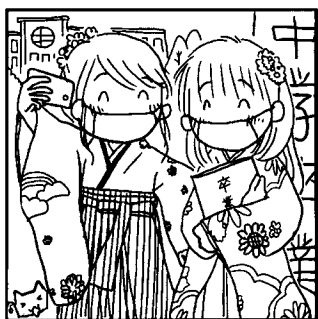
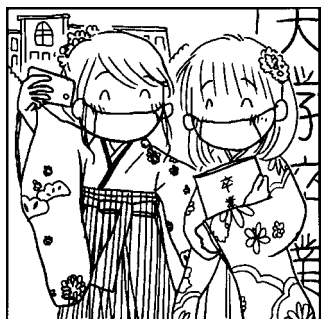
●この春、末娘が大学を卒業し就職します。秋に最後の授業料を払って、「さ、あとは老後に貯めよう！と、その前にリフォームもしたいな〜」などと何となく計画を立てていたのですが、相次ぐ値上げでリフォームどころではなくなりました。まずは節約することにして「お風呂は時間を空けずに次々入る！」今の我が家の目標となりました。

ペンネーム とんちゃん

まちがいさがし 3・4月

正解者のうち5名の方に
図書カードを差し上げます。

まちがいは8つ



作・小田 求

【応募のきまり】

〈締切〉2023年3月10日（金）◇当選者は2023年5・6月号に掲載。

〈応募〉1人1通。はがき又はEメールで。

氏名（投稿はペンネームでも可）、院所名（職場・職種）、OBの方は在職時の法人名を記入の上、下記へ送付して下さい。

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7

兵庫民医連ニュース「クイズ」係

〈Eメール〉kikansi@hyogo-min.com

※余白に、①興味深かった記事と感想、②事業所での取り組み紹介、③近況、④ニュースへのご意見等、お書き下さい。

1・2月号の応募者は12名で全員正解でした。右記の5名の方に図書カードを進呈。

①りんご（ペンネーム）
②ときわ（ペンネーム）
③ちこ（ペンネーム）
④とんちゃん（ペンネーム）
⑤村川美和子（医薬研OB）

1・2月号
の答え



法人 topics

兵庫県医療事業協同組合

連載コーナーです。

法人で“キラッと輝く”職員の、民医連で働き続ける理由や、こだわりを紹介します。

総務経理部

永安 英二さん

事務



プライベート

現在は総務経理部として日々の業務に少しでも活かしたいと思い、会計に関係する資格取得を目指し少しずつ勉強をしています。また一度自分自身が体調を崩した経験もあり、そこから色々な本を通じて健康面や運動、睡眠、食事に関して興味をもっています。もしこれらについての情報があれば教えて頂きたいです。

入職したきっかけ

自分自身が元々調理師として働いており、セントラルキッチン（新クックチルシステム）を導入した調理システムを学びたいと思い、（株）はぁもにぃ（当時）に入社しました。

その中で調理副主任/調理主任/企画開発（営業）と約10年間、色々な役割を経験させて頂きました。特にCK事業部の非常勤の方々には、入職当時から丁寧に教えて頂いたおかげで今の自分があると思っています。CK/SK共に非常勤の方々には特に感謝しています。

仕事でのこだわり、民医連で働き続ける理由

現在2022年7月より、調理師から事務（総務経理部）へ部署異動しました。また新たに業務を覚えていくことが多く、新入社員の気持ちで日々葛藤しているのが本音になります。ただ、自分が今まで経験したチームとして目標達成に向けて協力していく事はどの職種においても必要不可欠なことなので、今後はそれらの経験を活かして日々の業務に繋げていければと思っています。

兵庫県医療事業協同組合

食べることの幸せを想像する

～食を通して皆様の笑顔づくりに貢献していきます～

セントラルキッチン事業部はぁもにぃ 企画開発副主任 森本修平

兵庫県医療事業協同組合セントラルキッチン事業部「はぁもにぃ」では、事業統合前の2006年創立以来、給食提供とともに各種イベント行事での「食」に関わるサービスを提供させていただいています。

「食べることの幸せを想像する」ことを理念に掲げ、新調理技術を駆使したシステムが導入されたセントラルキッチンの厨房で調理を行い、記念行事や会議等でお弁当やパーティー食を提供し、関連法人以外の近隣の大学や企業様の協力もあり、皆様に評価をいただいています。



ケータリング

先輩方が作り上げてきた提供スタイルをしっかり受け継ぎ、ホテルや飲食店での調理経験がある調理師のアイデアを取り入れながら日々、品質の向上・ニーズにあった食事の開発に取り組んでいます。また、受発注対応で

は行事の趣旨や喫食場所等の情報を詳しく聞き取りを行い、臨機応変に対応し関係づくりにも努めています。

新型コロナウイルス流行後、兵庫民医連学術運動交流集会でのお弁当の提供中止等で受注数は減少していますが、兵庫民医連の各種会議でお弁当の注文をいただく中で、今後もセントラルキッチン事業部の取り組みとして継続していかなければいけないと感じています。さらに、原材料の高騰など厳しい状況は続きますが、調理法を工夫することで、いつもと変わらない品質での提供に努めていきます。

今後も食を通して皆様の笑顔づくりに貢献していきますので、コロナ禍が収束しましたら、またよろしく願いいたします。



ランチボックス